兎の耳と禮儀作法（九）

佐波古直胤

著座の條には、先づ左膝を突き次に右膝を突き整へて座するを云ふ、進む著座は右膝を前方に突き脚かゝ起ち、上座の足から座ります。起下座上の四字を覺えて置かゝはよいと思ふことになります。

正中を外れて左右の側、左右の面での所作は下座の右膝を突き整へ退く著座する時は先づ右膝を突き回轉して座するものです。座後より著座する時は先づ左膝を突き整ふるものとす、座前より著座する時は先づ左膝を突き回轉して座するものです。座後より著座する時は先づ左膝を突き整ふるものとす、座前より著座する時は先づ右膝を突き回轉して座するものです。

一、神前に近きを上位とし遠きを下位とす。

一、正中を上位とし左を次とし右を其の次とす

一、内務省の告示に

とあります。此處に注意せねばならぬことは左を次とし右を其の次とするとあるその左面右側右面右側ですがこれは何れも神殿を本として稱するもので左面と云へば御神座の左の方に於いて神座に向つて着するを遠云ひ、右面と云へば神座の右の方で神座に向つて着する參を云のです。參列してある人の方からは右と云ひ方がいよいよ何れも逆反對になつてまゐります。

御神座の正面、正面を正中と云ひまして、この正中にあつては進む時は右足から退きます。又此の正中に座ります際には左足から即ち右足から起ります、之は、[illegible]一度繰返します。正中の動作は進む右足右坐左足の八字を[illegible]

悼親友精君死

孫堂　小野務平

竹馬當年開笑顔
呼兄呼弟意偏閒
白頭今日交如故
底事捐吾去不還

平局俳聚會　五月句會互選句集

『魚市場にて』

○喧騒の中をくぐり抜ける鯉鰐　泊砂
○ひらすべにの鮪はね上げし櫻鯛　松鈴
○大敗の網に躍るる櫻鯛　同
○櫻鯛みるき畫の饗宴なり　水玉
○櫻鯛釣り疲れて潮ぶし　同

『上り簗』

○上り簗ふり急ぐ闇に水蓋む　同
○上り簗濁流せかれしぶき落つ　同
○木の簗渡る細き陽透かす上り簗　同
○上り簗ダイナモ唸る深くぐ　同
○上り簗水泡かたまりて崩れつゝ　同

恩讐無道

（110）

久我碧多郎

[illegible]川三十代藩士人[illegible]者

南京花火（一）

支那人の興行店から洩れてゐる灯が、夜に長くとゞいてゐるほかは、陰氣に暗くひそまり返つてゐた。

時間にしたらまだ早いのだ。八時か九時か。いや、もう眠つてゐるやうな淋なのである。

それへ、ピシヤリ〜と降雨が一層この陰氣な街をみめじにしてゐる。

傘を持たない男がひとり背を丸めて軒傳ひに、雨を避けながら犬ころのやうに歩いてゐた。さうしてゐるからあの灯のとゞいた路へ出た時の彼を見ると、ヂンギリの頭に、光りの霧を垂らしてゐた。着物も、グッショリ濡れてゐるのが初夏の宵にしかにも寒さうである。

何を考へてゐるのか、默々として歩いてゐる。默々と歩いてゐる。

ちょうど、こゝばかりは背の高さを見せてゐる、ガラス戸をめぐらした料理店の前を、その男が通り過ぎようとした折、すれ違ひに、洋傘を傾けた紳士が。

『おッ』

と立止まつた。

『金さんぢやないか』

呼ばれて振返つた男は、田原金四郎であつた。

『どうしたんだ。しつ、惣へ歸つて來たのか？』

『……』

金四郎は一瞬間目を伏せた。

『歸つてゐるなら、なぜ、わしの屋敷へ來なかつた？わしは、心待に待つてゐたのだよ』

相手は、親しげに寄り添つて來る。

が、金四郎、やはり默々としてゐるのだ。

それが、紳士に、どうも異樣に感じられる。

『可笑しい。今夜の金さんは、いつもの金さんぢやない。おゝ、すつかり濡れてゐるぢやないか。傘は、持つてゐないのか、おい、確かもしてくれよ、金さん』

濡れた肩をたゝかれて、金四郎は、目を上げた。かなしげな笑ひを笑ふのだ。

またく、常の金四郎ではないすくなくも、昨日深惣介に會ふまでの金四郎とは、人が違つて見える。

自分でも、それを感じてゐるのだ。どうしたのか？と、おきれたやうに己れの心を振返つて見てさて、深い理由が見付けられるわけもないが、ただ何となく心が重いのだ。息苦しい。

この息苦しいものに耐えられなくて、ゆうべも、惣介宅にあの家を飛び出[illegible]

紳士は、金四郎の肩を突いた。金四郎は、洋傘を着せかけながら、肩をならべて歩いた。

南京町を切れたところに辻待の馬車がゐた。二人は[illegible]に乘つて、くるゝ雨の降るなかを、眞直に山の手へ急がした。

紳士といふのは、御門專藏なのである。

天氣豫報

小名浜測候所發表

今朝　南西の風晴
明日　西の風晴後曇

ある横須へ歸つてみても、息苦しさには變りはない。酒を飲んでも、猪のように前へ進むことばかり考へる氣持にはなれない。醉へなくなつてゐる。

負けたか？しみ〜とそれを思ふ。

深見惣介といふ、あの男の度量の前には、まるで自分がちつぽけな人間に見ゆるのだ。口惜しいがどうにもこの考へ方から拔け切れない。

だから、息くるしいのでないか？

さつきから、雨の中を當なく歩きながら、金四郎はそれを考へてゐたのだ。

『とにかく、こんなところに立つてゐても仕樣がない。わしの屋敷へ行かう。いろ〜話が聞きたいから…』

磐城の御みやげ品
名物　霊峰羊かん（名産柿羊羹）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同　七濱……のり羊羹
同　豊間……辨天羊羹
◎各種　一本十錢
小川郷驛前
製造發賣元　平屋貨店

日本石油株式會社特約店
ライオンケサン石油株式會社理油特約店
福島縣平市一丁目（電話六十一番）
株式會社　關東商店平支店
本店　茨城縣下館町　電話五五、三三九番
茨城縣土浦町田宿　電話六五三番
茨城縣久慈郡　電話一三七番
茨城縣多賀郡　大津一四七番
支店　福島縣磐城郡　平潟五四番
福島縣四倉驛前　電話四八番
福島縣小名浜町
油槽所〈常磐線泉驛前
海岸給油所〈大浦港、平潟港、江名港
ガソリン給油所〈一七浦町新國道日本石油給油所
一電話八二番四

新車のお知らせ
斷然!!!　乘心地良い!!!
三七年型フオード
是非！御試乘の程を！
市内四丁目
スピードクラシー
電二一七番

新大平合同
東京上野驛前
下谷郵便局横通角）
電話下谷四六七七番
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人　比佐棟雄

或は下痢或は胃腸を害なりして三日四日も便通なくなくて頭痛を覺える御方はキキメの早い
霊効散　を御試し下さい
胃腸藥。心臓病。脳。痔。遺腎藥
三年五年と思ふ慢性胃腸病が全快した人が澤山あります御望の方には見本藥一日分を差上げますから御遠慮なく御來局下さい。
平市古鍛冶町縣社ノ下
總方發賣所　阿康藥局
定價　五十錢　壹圓　電話四四番
八日分　廿日分　振替口座東京三〇六五番
御子樣方には飲み易い小兒霊効散があります。

産婦人科
井坂醫院
平市田町　電五五九

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します、
福好工業合資會社
代表者　強口唯七郎
自動車部
電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します、

女店員募集
參名・通勤・十七才より二十五才マデ
月給制度・申込五月三十一日マデ……
大黒屋洋品店

小店員募集
四名・住込・十三才より十八才マデ
綱立教金積立制度……
申込　五月三十一日マデ……
大黒屋洋品店

生花教授
池ノ坊　生花を熱切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平市四丁目和泉屋盛館
須藤なつの

病者の福音
原因から治療する東洋醫學の新しい療法、迷はす疑はす今すぐ治療效果を試みられよ見離された急性慢性の難病が迅速確實に根治す萬上の實績は實驗者の立証に徴して明かなり
キット治ル
肺病ト肋膜　神經痛　神經衰弱
リウマチス　腎臓ト腎臓　關節炎
大便諸病　喘息　肩のコリ
痔疾　婦人諸病　中風
淋病ト梅毒　胃腸諸病
腦溢血豫防治療
其の他急性慢性ノ病む方に告
平市研町一七番地
器壓療法　佐々治療所
◇治療時間正午より

石川のすきやき鍋
初めました
最近東京ニ高評有る初見よりの牛料理は本場肉のすきやきでおろしの美味のよさトーゾ、た試食下さいマシ
平市田町銀座通り
牛料理　石川亭
電話四三番

募集
永續者には將來の保證を致します
ボーイさん　◇堅實な營業方針の　サロンのお客樣は當地一流の方々です　◇色々な方に接することの社交儀禮を實際に學び　成功の糸口となります
調理見習婦人　◇新定りるサロンの調理法を御傳授いたします　◇見習ひとして調理場に御勤務出來る御婦人に限る
◇14歳以上30歳迄の健康な方
◇3年以上勤續出來る方
◇殺權者若くは本人御來談下さい
平市銀座街　サロン
電話529

高　中等學校
正服……大特賣
合崎屋の洋服
男女學生服
新入荷
注文並ニ既製品
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

國は二ッポン・魚は凍魚
日本水産特約
御賣平製氷會社
（電二三八・三一六）
ヒマル凍魚
白エタ
冷カツノコ　ヒ
魚ビ
帆立貝柱　甘
ウニ貝燒　マナ鯉鯛
平代理店四丁目
印魚問屋
電五二八番
配達八一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

市内一部商人にも
愈よ反省の時が來た
物價取締り 當局の肚決る

市内一部の商人が物價維持統制に關する銃後の國策を体せず、不當の高値を以て購買者を苦しめるが如き不埒千万なるものあり、現に過般行はれた平署の一齊取締りに若干の違反者を出した程で時節柄經濟警察及び物價指導調査員の職能を發揮をより深刻に熱望されてゐる旨當報の如くであるが此の傾向は昨今各方面の過弊として當局の神經を尖鋭化せしめて居らしく昨年二十五日の全國警察部長會議に於ても戰時經濟推移に伴ひ物價問題は特に重要となり是が對策の實行如何は輸出の増進、戰算の施行、公債の消化、經濟力の擴充の名で市を通じ縣へ陳情

國民生活の安定等に極めて重大なる關係あるとして遂に決定せる物價統制大綱を徹底的に實施する爲經濟警察を全面的に活用する事になつたので、此の方針は當然地方にも具体的事實として、その表面化を見もべく從來其節の寛典に嫌慢なりしく昨年の一部商人には好き刺戟となるわけで其の展開を期待されてゐる

平商修祓式　平商業學校は殆ど竣功したので今二十六日午後二時から關係

時局柄眞に力强い
磐中の軍國氣分
陸士希望約五十名

全國學生々徒の時局的感激雄氏に變更、題目は『今次の拜受によつて其の最高潮に達したが、この頃もし非常時下の發奮は早くから地方學生の間にも漲溢し、之を昨年度に於ける磐中の陸士、海兵、幼年學校其他軍部學校志望者數に微する實に數十名の多きに上り年少學生が有つた國防軍備の微笑ましき關心振りを見せたが來月二十日を期限として目下受理中の本年度陸軍士官學校へ、磐中からの志望者數は既に四十五名に達し外に陸軍經理學校志望の三名と、今後尚は出願手續きあるべき分を加へ五十名を遙かに突破するの形勢にある。因に昨年の士官學校に志望二萬千人中千八百人採用　磐中からの合格者は六名であつた

海軍記念日講師變更　海軍記念日に際し明後二十八日午後一時磐中、午後七時市公會堂での記念講演會講師は横鎮寺垣大佐の筈であつたが都合で愛宕樂組機關中佐後藤正

木炭業者陳情　平市内木炭業者は現在卸値の昂騰から一俵の利益僅が三錢程度、それに各家庭へ配達管内警防團長會議は二十七

專賣局出張所新築
市内南裏に敷地決定

日午前十時から同署會議室で開き縣協會分擔金割當、支部會則制定につき協議

大金遺失

蒼くなつて平署へ

四犯男惡の道中記

平署では二十五日北海道函館市元町詐欺前科四犯山中十三日福島に向ふ列車内で嶽後函館市日魯漁業會社員鶴本喜藏と偽名し岩手縣三戸郡下の雜貨商六、七名を十圓を拔き取りこれが發覺訪れ『自分の會社で倉拂ひしてゴタ〳〵してゐるとこの傷もの鹽鮭を投賣する』と北海道から先拂ひ運賃二

全國大會を目指し
平局体育陣整ふ
八月郡山で縣下豫選

銃後体位向上の叫ばれてゐる折柄平局では種々の施設により全從業員に『先づ健康』の愚慮を鼓吹して居り今後は秩序ある陣容で進むべく運動部長を左の如く選任、縣通信官体育聯盟主催の下に八月郡山に開かれる野、卓球大會、今秋仙臺での弓道、庭球大會に必勝を期てし猛練習を積むことゝなつた

（野球）部長渡邊炭、副部長酒井利一郎（庭球）高久鐵夫、阿保正、（弓道）大友義男、永木與四郎（卓球）高萩組子、諸橋タニ

新測候所長
田代技師就任

氣象臺技師　田代武四郎

中央氣象臺小名濱測候所長

（田代氏略歴）氣象臺技師より中央氣象臺小名濱測候所長に榮轉した田代武四郎氏は和歌山縣出身、本年五十三、明治三十三年和歌山

呆れはてた手長小娘
荒す

札つきの不良少女—市内五丁目米穀商丹野周一郎氏長男一郎君は前線で酒瓶中去る六月壯烈な戰死を遂げた旨戰友の四丁目齋藤倉松君から實家に通知あつたが、また公電はない

實家は周一郎氏（五三）と母キヨさん（四七）姉は嫁ぎ妹四人、弟一人あり親君は平商卒後家業を扶けてゐた眞面目な獨身青年

縣廳を縱横斷する
石城つ子の豪勢さ
時の脚光に躍る顔ぶれ

本田平署長の福島職業紹介所長轉出に伴ふ縣下警察部長の異動に跳躍一番警視昇格を必然視されて居る箱崎秋警視が、日夜炭礦の煤煙に咽び乍らも天表高くそゝ出るかを刮目されてる山崎利勝保安課長が、目高を掬つたり立つ湯の嶽のスカイライン熊谷蜻蛉を追つたり稍々長じては夏の宵を明笛に將來の覇圖を暢叙し乍ら、よく滑津稱附近内郷出身であるは從來その生ひ立ちを知らなかつた人も、二人とも平の探題

際し明後二十八日午後一時磐中、午後七時市公會堂での記念講演會講師は横鎮寺垣大佐の筈であつたが都合で愛宕樂組機關中佐後藤正

菅の澤縣道改修
負擔決る
市と地元で各四百圓

從來降雨毎に『泥濘化』に惱まされてゐた市内菅の澤地内縣道は地元民の要望達成、當報の如く今年度に於て工費二千余圓の擴道踏切から菅の澤切割間の下水側溝工事を行ふことゝなつたので市では此程開かれた土木委員會で市負擔四百十九圓を決め、研古町でも同額の地元負擔に關し二十八日午後七時から天理教會内に地、家主等を集め負擔金造成につき協議する

更にこの縣道筋は明年度に於て部成地先きから久保町近く迄續行する方針になつてゐる

稅務協會總會　石城稅務協會總會は來月中旬縣稅務を遊び場として高久

市内長橋町古物商
森本長吉
傷害

市内長橋町古物商森本長吉こと牟島生れ吉仁伊（三二）は二十三日夜十時頃

飲酒酩酊子臨時し、仲家に入つた小名濱町定西吉輪商高田働吉こと高充伊（四七）の頭をビール壜で殴り要一週間の傷を負はせ平署に檢擧

專賣局出張所新築
市内南裏に敷地決定

日午前十時から同署會議室で開き縣協會分擔金割當、支部會則制定につき協議

大金遺失

蒼くなつて平署へ

四犯男惡の道中記

平署では二十五日北海道函館市元町詐欺前科四犯山中十三日福島に向ふ列車内で嶽後函館市日魯漁業會社員鶴本喜藏と偽名し岩手縣三戸郡下の雜貨商六、七名を十圓を拔き取りこれが發覺訪れ『自分の會社で倉拂ひしてゴタ〳〵してゐるとこの傷もの鹽鮭を投賣する』と北海道から先拂ひ運賃二

新測候所長
田代技師就任

氣象臺技師　田代武四郎

中央氣象臺小名濱測候所長

（田代氏略歴）氣象臺技師より中央氣象臺小名濱測候所長に榮轉した田代武四郎氏は和歌山縣出身、本年五十三、明治三十三年和歌山

呆れはてた手長小娘
荒す

札つきの不良少女—市内五丁目米穀商丹野周一郎氏長男一郎君は前線で酒瓶中去る六月壯烈な戰死を遂げた旨戰友の四丁目齋藤倉松君から實家に通知あつたが、また公電はない

實家は周一郎氏（五三）と母キヨさん（四七）姉は嫁ぎ妹四人、弟一人あり親君は平商卒後家業を扶けてゐた眞面目な獨身青年

縣廳を縱横斷する
石城つ子の豪勢さ
時の脚光に躍る顔ぶれ

本田平署長の福島職業紹介所長轉出に伴ふ縣下警察部長の異動に跳躍一番警視昇格を必然視されて居る箱崎秋警視が、日夜炭礦の煤煙に咽び乍らも天表高くそゝ出るかを刮目されてる山崎利勝保安課長が、目高を掬つたり立つ湯の嶽のスカイライン熊谷蜻蛉を追つたり稍々長じては夏の宵を明笛に將來の覇圖を暢叙し乍ら、よく滑津稱附近内郷出身であるは從來その生ひ立ちを知らなかつた人

台として宛然石井小浪程の人氣に躍る石城ゆかりの流行兒は豈敢て前記兩スターに至つ丈けで無いと云ふに至つ石炭の石城、肴の石城は更にまた人間靈出の淵源事務官を約束されて居乍らと云ふ事が出來る勘定である。見よ！學童熊と戯るる南會田島の支廳長から軍需躍る縣本綴組合專務理事に成り駒の鮮やかさを見せた正七位勳六等大蔵省三君を彼こそ郡出身ではないが郡制末期の石城郡書記、當時の縣下サーベル界に颯爽たるもんだ。更に之のポストを襲つて特任事務官の有力候補を以て目さるる現會